

[成果情報] 集落ぐるみのサル被害対策による農家の意識向上効果

[要約] 集落での被害対策が進展し被害が軽減することは、集落農家の被害対策への意識や営農意欲といった農家意識を向上する効果がある。

[キーワード] 獣害、サル、集落ぐるみ、農家意識、営農意欲

[担当] 三重農研・経営植物工学研究課

[代表連絡先] 電話0598-42-6356

[区分] 関東東海北陸農業・病虫害（鳥獣害）

[分類] 行政・参考

[背景・ねらい]

農村における獣害対策の本来の目的は、被害軽減そのものではなく、被害を軽減することで集落農家の営農意欲向上を図ることにある。集落が一体となった獣害対策が進み被害が軽減されれば、集落の被害対策への意識や農業への意欲は向上すると考えられる。

この効果を検証するため、集落ぐるみで獣害対策に取り組む集落を対象に、取り組み前後の被害対策への意識や営農への意欲の変化を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 集落ぐるみでサルの追い払いを行った三重県内の6集落（A～F）を対象に、対策の前後年である平成19年と20年で、被害状況、追い払い状況、農家の意識について集落悉皆調査を行い、その変化を分析する（表1）。
2. 追い払い指標（対目撃追い払い率、予防的追い払い率、農家参加率の平均）から見た集落ぐるみの追い払いは、集落A～Dで取り組み前年より大きく向上し（29～116%）、被害指数も減少している（-35～-79%）（表1、図1）。一方、集落E・Fでの追い払い指標はほぼ横ばいまたは低下し（6～-16%）、被害指数もほぼ横ばいまたは増加している（3～17%）。
3. 獣害対策への意識については、集落A～Dで肯定感が前年より向上し（25～35%）、否定感は低下（-31～-100%）している。一方、集落E・Fでは肯定感が低下（-13～-29%）し、否定感が増加している（17～33%）（図2）。
4. 営農意欲については、獣害対策の意識同様、集落A～Dでは肯定感が向上して否定感が低下する一方（それぞれ9～15%、-19～-35%）、集落E・Fでは逆に肯定感が低下して否定感が増加している（それぞれ-1～-3%、4～7%）（図3）。
5. 集落が一体となった被害対策が進み被害軽減ができた集落では、獣害対策や営農への意欲が向上することが明らかとなった。

[成果の活用面・留意点]

1. この結果は、集落が一体となった獣害対策が地域農業の維持に寄与し得ることを示す結果として、集落での農作物被害防除対策に活用できる。
2. 集落が一体となった被害対策が進まず、被害軽減ができない場合、被害対策や営農への意欲が低下する可能性もあるため、被害対策の推進に当たっては十分な集落の合意形成が重要と思われる。

[具体的データ]

表 1 被害対策、被害状況、意識等に関する調査結果

		集落A		集落B		集落C		集落D		集落E		集落F		
		取組前	取組後	取組前	取組後	取組前	取組後	取組前	取組後	取組前	取組後	取組前	取組後	
集落ぐるみの追い払い	対目撃追い払い率	40	64	34	61	53	68	37	82	42	46	53	45	
	農家参加率	48	87	45	100	35	44	57	64	50	42	50	39	
	予防的追い払い率	20	83	42	73	46	61	31	97	53	66	52	46	
被害状況		被害箇所数		被害箇所数		被害箇所数		被害箇所数		被害箇所数		被害箇所数		
		38	20	73	13	67	43	34	7	31	34	20	22	
		143	39	247	36	218	131	109	25	110	114	95	112	
農家の意識	獣害対策への意識	肯定感	集落で被害軽減が可能と思う											
		肯定感	被害対策は集落主体すべき											
		肯定感	自分で率先して被害対策をする											
		否定感	獣害対策は行政がすれば良い											
		否定感	獣害は何をしても無駄											
	営農意欲	肯定感	菜園は自分で管理したい											
		肯定感	全ての農地を自分で管理したい											
		否定感	農地管理を誰かに委託したい											
		否定感	農業を辞めたい											
		肯定感	農地を誰かに委託したい											

注 1) 「対目撃追い払い率」= 集落の 1 年間の追い払い回数 / 集落の 1 年間のサル目撃回数 × 100
 注 2) 「予防的追い払い率」= 被害に遭う前にサルを追い払った回数 / 集落の 1 年間の追い払い回数 × 100
 注 3) 「農家参加率」= 追い払い参加農家戸数 / 農家戸数 × 100
 注 4) 被害指数は、各被害箇所を「甚大」～「微」の 5 段階で分類し、「甚大」= 5、「大」= 4、「中」= 3、「少」= 2、「微」= 1 のポイントを乗じたものの計。
 注 5) 集落の意識の指標は各項目につき「そう思う」～「そう思わない」の 5 段階で質問し、「そう思う」と回答した人の割合

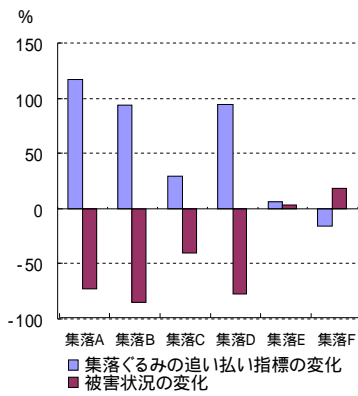


図 1 被害状況と追い払いの変化

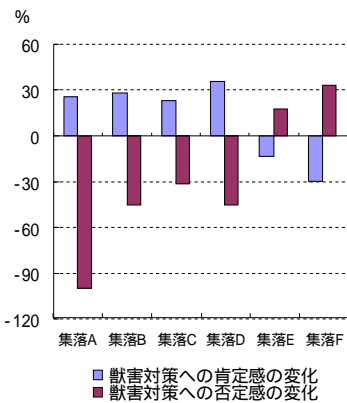


図 2 獣害対策への肯定感と否定感の変化

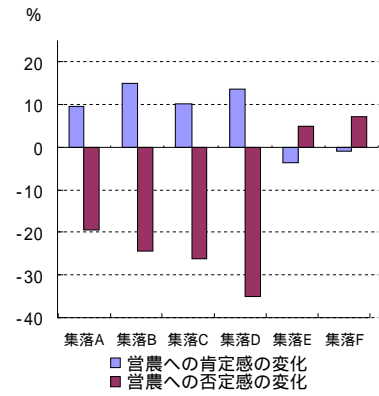


図 3 営農への肯定感と否定感の変化

注 1) 集落ぐるみの追い払いの変化は、注 1 と同様に算出した「対目撃追い払い率」、「予防的追い払い率」、「農家参加率」の平均値
 注 2) 被害状況の変化は、取り組み前年の被害指数に対する、後年の被害指数の変化の割合 (取組後の被害指数 - 取組前の被害指数) / 取組前の被害指数 × 100)

注 1) 獣害対策への肯定感の変化は、表 1 の「獣害対策への意識」の「肯定感」の各項目を図 1 注 1、2 と同様に算出した。
 注 2) 獣害対策への否定感の変化は、表 1 の「獣害対策への意識」の「否定感」の各項目を図 1 注 1、2 と同様に算出した。

注 1) 営農への肯定感の変化は、表 1 の「営農への意識」の「肯定感」の各項目を図 1 注 1、2 と同様に算出した。
 注 2) 営農への否定感の変化は、表 1 の「営農への意識」の「否定感」の各項目を図 1 注 1、2 と同様に算出した。

[その他]

研究課題名：集落機能を活用した農作物獣害対策技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2007 年度～2009 年度

研究担当者：山端直人、梶谷 育